

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



2024.1.27-2.2

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

7:53 「人々はそれぞれ家に帰って行った。

8:1 イエスはオリーブ山に行かれた。

8:2 そして朝早く、イエスは再び宮に入られた。人々はみな、みもとに寄って来た。イエスは腰を下ろして、彼らに教え始められた。

8:3 すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、

8:4 イエスに言った。「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。

8:5 モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするよう私たちに命じています。あなたは何と言われますか。」

8:6 彼らはイエスを告発する理由を得ようと、イエスを試みてこう言ったのであった。だが、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。

8:7 しかし、彼らが問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」

8:8 そしてイエスは、再び身をかがめて、地面に何かを書き続けられた。

8:9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始まり、一人、また一人と去って行き、真ん中にいた女とともに、イエスだけが残された。

8:10 イエスは身を起こして、彼女に言われた。「女の人よ、彼らはどこにいますか。だれもあなたにさばきを下さなかつたのですか。」

8:11 彼女は言った。「はい、主よ。だれも。」イエスは言われた。「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これから



は、決して罪を犯してはなりません。』」

人が人をさばく、すなわち罪に定めるといふことの問題がここにあります。彼らは律法を盾にとっていますから、全く正しいということができません。その点においては、彼らのしていることは一点の批判もできません。しかし、主イエスはそれを放置しませんでした。

「罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい」と言われたのです。誰も投げることはできませんでした。イエス様は訴える者たちを告発するわけではありませんでしたが、結局この女性をさばく資格のある者はないのだとうことを、悟らせたのです。

神様の赦しがここにあります。罪をさばく律法は有効です。罪は裁かれなければなりません。しかし人がさばくのではないのです。神様がだけがさばく資格をお持ちです。しかし、その神様は「わたしもあなたにさばきそ下さない。」と書いてくださいました。それは罪の身代わりになってくださったイエス様だからいえることなのです。

感謝しましょう。そして「これからは決して罪を犯してはなりません。」との愛のことばを、心に受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 28日 火曜

ヨハネ



8:12 イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」

8:13 すると、パリサイ人はイエスに言った。「あなたは自分で自分のことを証ししています。だから、あなたの証しは真実ではありません。」

8:14 イエスは彼らに答えられた。「たとえ、わたしが自分自身について証しをしても、わたしの証しは真実です。わたしは自分がどこから来たのか、また、どこへ行くのかを知っているのですから。しかしあなたがたは、わたしがどこから来て、どこへ行くのかを知りません。」

8:15 あなたがたは肉によってさばきますが、わたしはだれもさばきません。

8:16 たとえ、わたしがさばくとしても、わたしのさばきは真実です。わたしは一人ではなく、わたしとわたしを遣わした父がさばくからです。

8:17 あなたがたの律法にも、二人の人による証しは真実であると書かれています。

8:18 わたしは自分について証しする者です。またわたしを遣わした父が、わたしについて証ししておられます。」

8:19 すると、彼らはイエスに言った。「あなたの父はどこにいるのですか。」イエスは答えられた。「あなたがたは、わたしも、わたしの父も知りません。もし、わたしを知っていたら、わたしの父も知っていたでしょう。」

8:20 イエスは、宮で教えていたとき、献金箱

の近くでこのことを話された。しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。

イエス様に敵対していた人々は、何を聞いてもそれを否定しようとしていました。イエス様が「世の光」であったなら、彼らにとっては都合が悪いのです。パリサイ人は律法に安住してその利権をむさぼっていたので、イエス様の教える真理は彼らの立場を危うくするのです。

確かに証言は複数あった方が、信頼できますし、聖書でもそのように書かれています。だからといって1人の証言が、常に間違いであるというわけではありません。それは全くの詭弁です。

そのように人間は神様に従いたくないと思うと、自分の都合の良い理屈を造ってしまいます。クリスチャンであってもそのようなことがないか、考えてみる必要はありそうです。

イエス様は「父がわたしについて証ししておられます。」と言われます。イエス様と御父は一体です。そのような愛のすばらしい交わりに入れていただいた私たちですから、みこころに従うときは喜びと安心を持ちましょう。安心して従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 29日 水曜

ヨハネ



8:21 イエスは再び彼らに言われた。「わたしは去って行きます。あなたがたはわたしを捜しますが、自分の罪の中で死にます。わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません。」

8:22 そこで、ユダヤ人たちは言った。「『わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません』と言うが、まさか自殺するつもりではないだろう。」

8:23 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは下から来た者ですが、わたしは上から来た者です。あなたがたはこの世の者ですが、わたしはこの世の者ではありません。」

8:24 それで、あなたがたは自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。わたしが『わたしはある』であることを信じなければ、あなたがたは、自分の罪の中で死ぬことになるからです。」

8:25 そこで、彼らはイエスに言った。「あなたはだれなのですか。」イエスは言われた。「それこそ、初めからあなたがたに話していることではありませんか。」

8:26 わたしには、あなたがたについて言うべきこと、さばくべきことがたくさんあります。しかし、わたしを遣わされた方は真実であって、わたしはその方から聞いたことを、そのまま世に対して語っているのです。」

8:27 彼らは、イエスが父について語っておられることを理解していなかった。

8:28 そこで、イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げたとき、そのとき、わたしが『わたしはある』であること、また、わたしが自分からは何もせず、父がわたしに教え

られたとおりに、これらのことを話していたことを、あなたがたは知ようになりま

す。  
8:29 わたしを遣わした方は、わたしとともにおられます。わたしを一人残されることはありません。わたしは、その方が喜ばれることをいつも行うからです。」

8:30 イエスがこれらのことを話されると、多くの者がイエスを信じた。

イエス様が語っておられることは、救われた私たちにはよく分ります。「去る」とは天に帰られること、「罪の中で死ぬことになる」とは死のさばきを意味していることは明白です。しかし、救われていない人にはわかりません。救いの真理は聖霊によって目が開かれなければ、わからないからです。

私たちが信じたのは、自分の理解力ではなく、ただ神様の恵みであることを忘れないで、感謝しましょう。また謙遜でありましょう。

「多くの者がイエスを信じた。」とあります。同じことを聞いても、イエス様を拒絶する者と信じる者に分かれるのです。ですから伝道など主のわざには、誰でもが信じて変わるような万能のことばや方法論があるわけではありません。聖霊によるのです。そしてその時に、救いに備えられた人がいるのです。効率や効果的な方法を探すよりも、主に頼り聖霊の力によるほうが、はるかに前進できるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 30日 木曜

ヨハネ



8:31 イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。」

8:32 あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

8:33 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、今までだれの奴隷になったこともありません。どうして、『あなたがたは自由になる』と言われるのですか。」

8:34 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。」

8:35 奴隷はいつまでも家にいるわけではありませんが、息子はいつまでもいます。」

8:36 ですから、子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。」

8:37 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知っています。しかし、あなたがたはわたしを殺そうとしています。わたしのことばが、あなたがたのうちに入っていないからです。」

8:38 わたしは父のもとで見たことを話しています。あなたがたは、あなたがたの父から聞いたことを行っています。」

8:39 彼らはイエスに答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの子どもなら、アブラハムのわざを行うはずですよ。」

8:40 ところが今あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに語った者であるわたしを、殺そうとしています。アブラハムはそのよう

なことをしませんでした。

8:41 あなたがたは、あなたがたの父がすることをやっているのです。」すると、彼らは言った。「私たちは淫らな行いによって生まれた者ではありません。私たちにひとり父、神がいます。」

8:42 イエスは言われた。「神があなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずですよ。わたしは神のもとから来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わされたのです。」

8:43 あなたがたは、なぜわたしの話が分からないのですか。それは、わたしのことばに聞き従うことができないからです。」

8:44 あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。」

8:45 しかし、このわたしは真理を話しているのです、あなたがたはわたしを信じません。」

8:46 あなたがたのうちのだれが、わたしに罪があると責めることができますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。」

8:47 神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」

が離れてゆきました。それはイエスが真理を語ったからです。彼らは「私たちはアブラハムの子孫であるというプライドがあったので、自分を変えてまで受け入れる思いがなかったのです。」

このように、人々の心が離れて行く様子がわかります。主のみわざは、人間の心を繋ぎとめるのが目的ではないのです。私たちも人ではなく、主の心にかなう教会・生活であるように、「(イエスの)ことばにとどまる」弟子になりましょう。そして真理のことばを語りましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

せっかくイエスのことばを聞いた人々も、多く





## 31日 金曜

ヨハネ



8:48 ユダヤ人たちはイエスに答えて言った。「あなたはサマリア人で悪霊につかれている、と私たちが言うのも当然ではないか。」

8:49 イエスは答えられた。「わたしは悪霊につかれてはいません。むしろ、わたしの父を敬っているのに、あなたがたはわたしを卑しめています。」

8:50 わたしは自分の栄光を求めません。それを求め、さばきをなさる方がおられます。

8:51 まことに、まことに、あなたがたに言います。だれでもわたしのことばを守るなら、その人はいつまでも決して死を見ることがありません。」

8:52 ユダヤ人たちはイエスに言った。「あなたが悪霊につかれていることが、今分かった。アブラハムは死に、預言者たちも死んだ。それなのにあなたは、『だれでもわたしのことばを守るなら、その人はいつまでも決して死を味わうことがない』と言う。」

8:53 あなたは、私たちの父アブラハムよりも偉大なのか。アブラハムは死んだ。預言者たちも死んだ。あなたは、自分を何者だと言うのか。」

8:54 イエスは答えられた。「わたしがもし自分自身に栄光を帰するなら、わたしの栄光は空しい。わたしに栄光を与える方は、わたしの父です。この方を、あなたがたは『私たちの神である』と言っています。」

8:55 あなたがたはこの方を知らないが、わたしは知っています。もしわたしがこの方を知らないと言うなら、わたしもあなたがたと同様に偽り者となるでしょう。しかし、わたしはこの方を知っていて、そのみことばを守つ

ています。

8:56 あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見るようになることを、大いに喜んでいました。そして、それを見て、喜んだのです。」

8:57 そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ五十歳になっていないのに、アブラハムを見たのか。」

8:58 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある』なのです。」

8:59 すると彼らは、イエスに投げつけようと石を取った。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

昨日の箇所 41 節には、「淫らな行いによって生まれたものではありません。」とありますが、これはイエス様へのあてつけで、マリアが結婚の前にイエス様を生んだからです。それは聖霊によるのであり、マリアが石打ちにならなかったことからすると、常識を超えたの出来事であったことがわかります。しかし、それを彼らが非難してのことでした。

ここでは、一度はイエス様を信じようかという気持ちになった人々も、多くがイエス様を理解できないでいることがわかります。そしてだんだんと心が離れてゆき、最後には「イエスに投げつけようとして石を取った」ことまでしたのです。これは石打ちで殺すことにもなるものです。

このようにどんなに信仰があるように見えても、もしも、イエス様が神であること、イエス様の救いというものを、受け入れていないなら、「悪魔から出た者」のままなのです。

明確な救いを体験しましょう。また教会に来ていても救いが明確でない人のために、祈り愛して導きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 1日 土曜

ヨハネ



9:1 さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。9:2 弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」

9:3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。」

9:4 わたしたちは、わたしを遣わされた方のわざを、昼のうちにを行わなければなりません。だれも働くことができない夜が来ます。

9:5 わたしが世にいる間は、わたしが世の光です。」

9:6 イエスはこう言ってから、地面に唾をして、その唾で泥を作られた。そして、その泥を彼の目に塗って、

9:7 「行って、シロアム（訳すと、遣わされた者）の池で洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗った。すると、見えるようになり、帰って行った。

9:8 近所の人たちや、彼が物乞いであったのを前に見ていた人たちが言った。「これは座って物乞いをしていて人ではないか。」

9:9 ある者たちは、「そうだ」と言い、ほかの者たちは「違う。似ているだけだ」と言った。当人は、「私がその人です」と言った。

9:10 そこで、彼らは言った。「では、おまえの目はどのようにして開いたのか。」

9:11 彼は答えた。「イエスという方が泥を作って、私の目に塗り、『シロアムの池に行つて洗いなさい』と言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました。」

9:12 彼らが「その人はどこにいるのか」と言うと、彼は「知りません」と答えた。

9:13 人々は、前に目の見えなかったその人を、パリサイ人たちのところに連れて行った。

9:14 イエスが泥を作つて彼の目を開けたのは、安息日であった。

9:15 こういうわけで再び、パリサイ人たちも、どのようにして見えるようになったのか、彼に尋ねた。彼は、「あの方が私の目に泥を塗り、私が洗いました。それで今は見えるのです」と答えた。

9:16 すると、パリサイ人のうちのある者たちは、「その人は安息日を守らないのだから、神のもとから来た者ではない」と言った。ほかの者たちは「罪人である者に、どうしてこのようなしるしを行うことができるだろうか」と言った。そして、彼らの間に分裂が生じた。

目が見えないということは大変な障害ではありますが、その人の罪からくるものではなく、それによって神様の栄光が表されるのだと、イエス様は明言なさいます。

そもそも苦しみというのはサタンから来るものですが、神様はそれをお用いになることがあります。その目的は様々で、訓練のため、信仰を試すため、主のきよさと本当の信仰を学ばせるため、または罪を教えるためなどです。どれも私たちが愛しているからこそ、神様の導きです。

ですから苦しみや苦難が必ずしも罪の結果とは限らないのですから、他の人が病む人に対して罪があるのだとさばくことは間違っているのです。

ただし、自分の苦難に際しては、主のみこころを求めする必要があります。もしかしたら罪を示されるかもしれませんが、謙った思いで祈る必要

があります。

イエス様はつばと泥という、およそ癒しには似つかわしくないものを用いられました。これは盲人の信仰を明かにするためです。またすぐには癒されなくて、「シロアムの池で洗いなさい」と言われたのです。これもまた彼の信仰を必要とするものでした。

主は恵と解決と用意して待つておられますが、私たちの信仰を見たいと願っておられます。信じて一歩を踏み出すときに、主のみわざは表れまますから、信仰の表れとして実行しましょう。

パリサイ人には学問がありましたが、神様は学問のない盲目であった人を用いて、イエス様の証しをするように導かれました。彼には神体験があったのです。またかつての自分を知っていたのです。

もちろんパウロのように一流の学者も証し人になりましたが、学問や学歴があるかどうかは主の前には問題ではありません。明確な体験、すなわち救いといやしい聖めの実体験があるかどうかです。また自分の力ではなく、全く主の恵であったと分っているかどうかなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 2日 日曜

ヨハネ



9:17 そこで、彼らは再び、目の見えなかった人に言った。「おまえは、あの人のについてどう思うか。あの人に目を開けてもらったのだから。」彼は「あの方は預言者です」と答えた。

9:18 ユダヤ人たちはこの人について、目が見えなかったのに見えるようになったことを信じず、ついには、目が見えるようになった人の両親を呼び出して、

9:19 尋ねた。「この人は、あなたがたの息子か。盲目で生まれたとあなたがたが言っている者か。そうだとしたら、どうして今は見えるのか。」

9:20 そこで、両親は答えた。「これが私たちの息子で、盲目で生まれたことは知っています。」

9:21 しかし、どうして今見えているのかは知りません。だれが息子の目を開けてくれたのかも知りません。本人に聞いてください。もう大人です。自分のことは自分で話すでしょう。」

9:22 彼の両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れたからであった。すでにユダヤ人たちは、イエスをキリストであると告白する者がいれば、会堂から追放すると決めていた。

9:23 そのため彼らの両親は、「もう大人ですから、息子に聞いてください」と言ったのである。

9:24 そこで彼らは、目の見えなかったその人をもう一度呼び出して言った。「神に栄光を帰しなさい。私たちはあの人が罪人であることを知っているのだ。」

9:25 彼は答えた。「あの方が罪人かどうか私

は知りませんが、一つのことは知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」

9:26 彼らは言った。「あの方はおまえに何をしたのか。どのようにしておまえの目を開けたのか。」

9:27 彼は答えた。「すでに話しましたが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜもう一度聞こうとするのですか。あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか。」

9:28 彼らは彼をののしって言った。「おまえはあの方の弟子だが、私たちはモーセの弟子だ。」

9:29 神がモーセに語られたということ私たちが知っている。しかし、あの方については、どこから来たのか知らない。」

9:30 その人は彼らに答えた。「これは驚きです。あの方がどこから来られたのか、あなたがたが知らないとは。あの方は私の目を開けてくださったのです。」

9:31 私たちは知っています。神は、罪人たちの言うことはお聞きになりませんが、神を敬い、神のみこころを行う者がいれば、その人の言うことはお聞きくださいます。

9:32 盲目で生まれた者の目を開けた人がいるなどと、昔から聞いたことはありません。

9:33 あの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできなかったはずですよ。」

9:34 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。

彼の両親は「あれに聞いてください」と、明言することを避けて、自分を守ろうとしましたが、

彼は恐れず勇気を持って大胆に証しました。そのようなキリストの証人となりましょう。

この元盲人は、難しいことを説明したのではありません。ただ「今は見えるということ」を、すなわち神様のしてくださった事実を話したに過ぎません。しかし、事実には力があります。それはパリサイ人のうちにある傲慢と真理とを分けるほどの力でした。

しかしパリサイ人の一部は、「私たちが教えるのか」と、傲慢なままで神の真理に心を開きませんでした。このように、”自分は分っている。信仰がある。教えられる必要はない”などと思っていると、パリサイ人のように主のみざわやみこころが分らなくなってしまいます。気をつけなければなりません。他の人の証しや、示唆に耳を傾けましょう。謙遜異なって教えを請いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

